

[令和4年度] 第5回 飯田市新文化会館整備検討委員会 会議録

会議名称	第5回 飯田市新文化会館整備検討委員会
開催日時	令和5年2月3日(金)午後7時～午後9時2分
開催場所	飯田市公民館（ムトスぷらざ） 2階多目的ホール
出席委員(敬称略)	上沼俊彦、川崎好昭、塩澤哲夫、高松和子、 黒河内智子、桑原利彦、小西盛登、小木曾俊夫、 遠山あづみ、前澤正徳、森本典子、佐々木宏幸
欠席委員(敬称略)	片桐啓、田中悦雄、賜正俊、原田雅弘、小澤櫻作、山元浩
オブザーバー (敬称略)	井坪隆
出席事務局職員	松下参与（教育次長事務取扱）、下井文化会館長、 筒井補佐兼文化会館建設担当専門主査、 木村事業係長、白井主査、中島会計年度職員、 山崎人形劇のまちづくり係長
会議の概要	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 前回の振り返り（配布資料No.1、ニュースレター第3号）、 今後の進め方（配布資料No.2）</p> <p>(2) 意見交換 テーマ：「新しい文化会館の基本構想」（活動内容の検討） （資料No.3）</p> <p>○話題提供： 市民ワークショップの声 … 桑原委員 飯田の文化をともに考える 「BUNKA ミーティング」 （R4/9/4 実施）</p> <p>～こんな文化会館なら行ってみたい！ 飯田でやりたいこと・活動～</p> <p>○前半（班別意見交換 → 発表） 「舞台芸術（施設）の視点と地域づくりの視点から考える 新しい文化会館に必要な活動（コト、モノ）」</p> <p>○後半（全体意見交換） 「地域づくりの視点から見たときにどのような効果があるのか ～まちを育む、人を育む、活力を生み出す～」</p> <p>5 班編成</p> <p>1 班(3名) 塩澤、遠山、佐々木 (白井)</p> <p>2 班(2名) 桑原、森本 (中島)</p> <p>3 班(3名) 飯島、川崎、黒河内 (木村)</p> <p>4 班(4名) 小木曾、小西、高松、参与 松下 (山崎)</p> <p>5 班(3名) 上沼、前澤、館長 下井</p> <p>3 事務連絡</p> <p>4 閉会</p>

※公表の会議録（発言）には委員の氏名を掲載いたしません。

令和5年2月3日（金） 午後7時00分 開会

1 開 会

○事務局 それでは、時間となりましたのでよろしくお願いいたします。

○委員長 皆さん、こんばんは。

定刻となりましたので、ただいまから第5回新文化会館整備検討委員会を開催いたします。

本日、欠席のご連絡をいただいている方、片桐委員さん、田中委員さん、原田委員さん、賜委員さん、それから小澤委員さん、山元委員さんから欠席の連絡をいただいております。ちょっと欠席の方が多くなってしまったかなと思いますが、よろしくお願いいたします。

2 議 事

○委員長 それでは、早速ですが議事に入ります。

(1) 前回の振り返り・今後の進め方

○委員長 初めに（1）前回の振り返り・今後の進め方について、事務局から説明をお願いします。

○松下参与（事務局） 皆さん、こんばんは。お世話様になります。教育委員会の松下と申します。

私のほうから前回の振り返りをさせていただきますが、その前に資料のご確認ですが、本日の資料につきましては、次第の綴りと、ニュースレターのNo.3、ワークショップの意見交換シート、またアンケート用紙、この4種類の資料をお配りしております。ご確認をお願いします。不足するものがありましたら、事務局のほうにお申し出いただければと思います。

それでは、前回の第4回検討会として行った学習会の内容の振り返りをさせていただきますと思いますけれども、これについては次第の資料の特に2ページ・3ページを中心に見ていただき、ニュースレターについても、それぞれの基調講演の内容、それぞれ対談していただいた方々の発言の要旨については記載されておりますので、それらを合わせてご覧をいただきたいと思います。

前回の学習会の基調講演、また特別対談でそれぞれの皆様からお話をいただいた内容は、まさにこれからの基本構想の策定に向けた検討をしていく上で念頭に置かなければいけない重要な内容が実に盛りだくさんでございました。

本日の第5回は、まず初めに、前回、第4回の学習会の内容の振り返りを行いまして、それぞれの委員の皆様からは、ご質問と感想を短時間ではありますけれども、いただいて、共通認識としてまいりたいと思います。その上で、本日意見交換として、新しい文化会館の基本構想のうちの活動内容、また新文化会館ではこんな活動がしたい、できるといいな、必要だなといった点について、小グループに分かれて話し合いを行っていただきます。

特に皆さんの話し合いの中でまとめられ、仮置きをしている新文化会館の基本理念、これに

については「みんなが集い、創り 伝える 感動の飯田ひろば」という言葉を仮置きをしていますけれども、これを実現するためにはどのような活動が考えられるか、これについて現在していることや、新たにこんなことをしてみてもどうかというようなそんなようなことなど、様々なご意見を出していただきたいというふうに考えております。

なお、グループワークに入る前に、特に若い世代の皆さんによる市民ワークショップというのが行われ、この資料が付いておりますけれども、これについて桑原委員さんに話題提供という形でお話をいただきたいと思います。特に、この検討委員会をお願いしている委員の皆さん方については、つくり手であったり演じ手であったりという皆さんが多いですけれども、それと同時に、一般の市民の皆さん、鑑賞をされる方であったり、多少興味があつて、文化会館へ足を運ばれるといった皆さんがおいでになりますけれども、全く文化会館には通っていないという皆さんもおいでになるので、そういった皆さんも含めて、どういう取組をしていったらいいのかということを考えていく必要があるので、そういう一般の市民の皆さんの感覚もちょっと思いを巡らせていただいて、ご意見をいただきたいと思います。

具体的には、例えば、「みんなが集い」という「集い」の機能をつくっていくためにはどういう活動や動きができていったらいいのかなというところ。また、「創る」ということは、どういう活動があればいいのかな。「伝える」ということは、どういう活動があればいいのかな。「感動する」ということは、どういう活動なのかな。そして「飯田ひろば」についても。これらは、それぞれ独立したワードとしてあるわけではなくて、いろんな要素が絡み合つて、つながっている部分もありますので、それらを含めて、いろんな角度からご意見をお出しいただければと思います。それについて、各グループのほうで発表をいただいて、全体で整理をしていくというふうに考えています。

また、意見交換の後半ですけれども、これは前回の学習会で草加先生、また佐々木先生のまとめの中で、「これまでの基本理念の話が、新文化会館の文化芸術活動の振興を中心に、こういう機能があるといいな」というようなところを中心にされてきましたけれども、「もう少し上から見て、俯瞰的に見て新しい文化会館が、まちづくりにおいてはどういうその効果や役割を持っていったらいいのかなという、視点も必要だろう」というふうにご指摘いただきました。

草加先生のほうからは、特に「まちをつくり、人をつくり、賑わいをつくる」というような言葉をいただきましたけれども、それは飯田市の新しい文化会館をまちづくりのなかでどんなふうに捉えて見ていったらいいのかという辺りで、ワークショップの後半は意見交換いただければと思います。

今日の進め方について説明をいたしましたけれども、第6回以降についても基本構想について検討いただきますけれども、この基本構想については、特に事業の考え方、活動のあり方、また、施設設備の考え方、こういったところを回を重ねてご意見をいただく形で進めて、構想案をまとめていきたいというふうに考えています。

それでは、続いて、先ほど申し上げた資料の2ページから4ページ、ニュースレター第3号をご覧いただきたいと思いますが、前回、第4回の検討委員会学習会の第1部では基調講演をして、「全国事例から見えてくる新しい時代の地域の公共劇場の姿」ということで、アドバイザーの草加叔也先生のほうから公共劇場の果たす役割の変化を分かりやすくご説明をいただきました。この中では、特に30年前、9年前、現在とだんだんと公共劇場の役割が変化をしてきていて、最近では特に創造発信型の劇場も造られるようになってきているということで、草加先生が関わっている岡山についても文化芸術の創造をする、ハレノワという施設を今、造られて、この秋に走り出しをされるということですが、そのように役割が変わってきているというお話をいただきました。

仮に設定をした新文化会館の基本理念、この中に含まれている言葉、特に「地域を意識した『飯田』や『ひろば』といった言葉が何を伝えようとしているのか、そのためにはどんなことをしなければならないのか、そのための機能は何か、こういったことをしっかり考えていく必要がある」という問題提起をいただきました。

また、「これらの視点に立ったときに、施設機能を考える上で、地域性と広域性、また専門性と多機能性、この2つの軸の中で、飯田市の新文化会館の重心をどこに置いたらいいのかということも考えていく必要がある」という重要なご指摘もいただきました。

続いて第2部でありますけれども、これはパネルディスカッションとして草加先生と3名の学識委員、また委員長に「リニア時代の飯田にふさわしい『新飯田文化会館』のあり方」というテーマで対談をいただきました。

草加先生の基調講演の問題提起を受けて、佐々木委員さんの進行によって、2つの論点で対談をいただきましたが、1つ目は新文化会館の役割として「人・まち・賑わいをつくる」という役割までを想定したときに、東京や名古屋との時間的距離が短縮されるリニア新時代に、地域性と広域性というものをどんなふうに捉えていったらいいのかということでお話をいただきました。

もう1つは、「創造と鑑賞のバランス」、こういったことにも関わってくる施設機能として、専門性と多機能性をどう考えたらいいのか、こういった点について、それぞれの皆さんから考え方、意見をお出しいただきました。

山元委員さんからは、飯田ならではの文化の創造と発信について発言をいただき、飯田ならではのオンリーワンを目指す可能性が語られました。一方で委員長さんからは、「『飯田市にふさわしい』という言葉が使われるけれども、『ふさわしい』とはどういうことなんだろうか、飯田らしいってどういうことなんだろうか、この辺を私たちがやっぱり『なるほど、そうだね』っていうふうに納得しないといけないだろう」というようなご発言があり、「外からの視点をいただきながら、飯田に住む私たちが飯田らしいということについて、さらに深く考えていくことが重要ではないか」、こういったご発言をいただきました。

また、リニア時代におきましては、「首都圏、また中京圏をうまく使っていくための手段と

して、この時間軸を活用していくということで、これが一つの重要な戦略になるんじゃないか」ということで、これは草加先生のほうからご提言をいただきました。これについて、「一般的には都市部から人を誘客をして見てもらうっていうことを中心に考えがちだけれども、そういった視点だけではなくて、短くなった時間的距離をどういうふうに生かすかという視点に立ったときには、地域の文化芸術の振興に有効・有益な人材の活用ということで、そういった皆さんにここへ来ていただきやすい環境もできるので、創造活動をそういった皆さんの力をいただきながら、協働的に進めていくというのができるので、そういったところにリニア時代の新しいまちづくりの可能性があるのではないか」ということでお話をいただきました。

さらに施設機能の専門性と多機能性につきましては、施設規模との相関関係が話題となりましたけれども、これについては草加先生のほうから「必ずしも大きな客席数を持たないと質の高い鑑賞事業ができないわけではないので、例えば複数のホールの中に専門性を持つ小ホールを持つなど、ある程度重心を持った多機能ホールを造るという考え方も選択肢の一つではないか」というようなことで具体的な提言がされました。

また、草加先生のほうからは、『創客』、お客様を創るという視点からアプローチについて、地域の人にとって芸術鑑賞がライフスタイルの一部となるような創客の視点からのアプローチが極めて重要である」というようなご発言をいただきました。

また、小澤委員さんからも、「利用者を増やしていくと同時に、観客を増やしていくという『創客』ということが車の両輪として本当に大切だ」ということで、これは上田のサントミュージーゼに小澤委員は深く関わっておいでになりますけれども、「コロナ禍でもそれを一つのコンセプトとして取り組まれている」ということでありました。「そのために普段、舞台芸術に触れる機会が少ない人たちへの働きかけをして、アウトリーチ活動を通じて、その施設に来ていただける、そこで鑑賞していただける層を、市民層を増やしていくんだということ、開拓をしていくんだ、そういったことが必要じゃないか」というようなことで、これは実践の中からのお話としていただきました。

あと、司会を務めていただきました佐々木先生からも補足、コメントをいただきますけれども、この対談から導き出された3つのポイントとして、1つ目は「リニア時代には『まち、賑わい、人をつくる』といった役割を劇場にどう持たせるかが重要だ」ということ。

2つ目として、「リニアによる時間短縮、これは単に人を呼ぶ手段ということではなくて、先ほど草加先生のお話にもあった、新しい文化会館の創造活動などに生かしていくっていう視点が必要だ」ということ。

3つ目として、「地域の文化施設として飯田周辺エリアを主対象として、主目的ホールと専門的小ホール、これを組み合わせをして考えていくということがあるだろう」と。「収容しきれない機能は、時間距離短縮を活用して、別途供給する視点ということも考えてみてもらいたいだろう」というような、以上の3点を対談のまとめとしていただきました。

これから基本構想を検討していく上で本当に重要な内容がたくさん込められた学習会でありましたので、多少佐々木先生のほうからも補足をいただいて、その後、委員の皆様から短時間ではありますけれども、ご質問や若干の感想をいただければと思います。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○委員長 はい、ありがとうございました。

それじゃあ、〇〇学識委員、補足をお願いします。

○委員 皆さん、こんばんは。〇〇でございます。

今、松下参与のほうからかなりの確にまとめていただいたので、簡単にお話をさせていただきたいと思いますが、私としてはやはりこの前の勉強会で一番感じたのは、今までのこの委員会というのが、文化会館というもののどちらかという中への視点でどういうものであるべきかっていうところに対して、外部の専門家の方が来たときに、今の3つのポイントの1つ目は「まち・人・賑わいをつくる」というふうに表現をされていましたが、文化会館というものが、より広い飯田という地域に対して何ができるのかっていう考え方。飯田文化会館というのは文化会館である以上に、その地域にとってどう貢献できたのかっていうのは、非常に重要な視点だなというふうに思いました。

それとも関係しているんですけど、リニアがつながるということで、私もそうだったんですが、人がどれくらい来てくれるのかっていうところに目がいきがちですけど、そうではなくて、その文化を創るとかそういう視点で考えたときに、要は観客だけではなくて、専門家とかそういうほかの文化を創っている人たちとつながる機会もあるっていうふうに捉えるという視点も、私にとっては非常に新鮮な視点でした。

そういったことを踏まえたときに、そのポイントの3つ目の専門性であるとか多機能性っていうものをどこに落とし込んでいくのか、あるいは地域と広域というのをどこに落とし込んでいくのかっていうところを考えていく、検討していくことが大事だなというふうに感じました。

簡単ですが以上であります。

○委員長 ありがとうございました。

ただいま、前回の振り返り、それから今後の進め方っていうところについて事務局、それから佐々木委員から説明がありました。

何か質問のある方いらっしゃいますか。ちょっと今、ここを話されたんだけど、もうちょっと説明がほしいとか。

よろしいですか。

(発言する者なし)

○委員長 この後、お一人お一人から短時間の感想等を述べていただく時間を用意してあります。

特にないようですので、次へ進めさせていただきたいと思いますが。

前回の学習会では、これから基本構想を私たちが考えていくときに、より深く検討してい

く上でとても大事な視点が提起されたと思います。ただいま、佐々木委員からのご発言がありました。今回はこの後、それぞれのグループに分かれていただいておりますので、その中で振り返りの感想を一言ずつ述べていただくのと、ご意見をそれぞれのグループの中で交わしていただきたいと思います。

時間の都合で一人1分程度ですみませんが、よろしくお願いいたします。

そして、最後にオブザーバーと1班の〇〇学識委員からコメントをいただきたいと思います。

それじゃあ、感想を述べていただくようにいたしますが、まず4班からすみません、4班、5班、3班、2班、1班というふうに戻ってきたいというふうに思います。

ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

○委員 なぜかマイクが私の手元へ届きました。

まず、班で意見交換をしてないので、個人的な思いになるわけですが、今までの勉強会の中で、一つは地域づくりとどういうふうにするのかというところが、一つの課題になったというところがあるのかなというふうに思っていて、私も公民館の活動をしている立場とすると、そういった地域の人の活動と施設と、結果として地域づくりというところがどうつながっていくように考えていけばいいのかなというのを少し思いながらおります。

それからもう一つ、専門性と多機能というところの扱いを一つの施設としてどういうふうにするのかというところも、話の中では大きな施設、小さな施設でそれぞれがその役割を持つていうようなお話もいただいているんですけども、そういう形で進めていくことがいいのかどうかというところも、これから文化会館、新しい施設を整備を考えたときに考えていく必要があるのかなあ、そんなことを感じておりますので、またそれぞれ皆さんでご意見をいただいて、また話が進んでいけばうれしいなというふうに思っていますので、よろしくお願いいたします。

○委員長 ありがとうございます。

じゃあ、続けてお願いします。

○委員 お願いします。

何回か勉強会を持つうちに、余計見えなくなるというか、いろいろ望みすぎてっていうようなこともあるんじゃないかなということも今、感じております。今、今日のところで言うと、飯田にふさわしいひろばというと、飯田にふさわしいっていうことはどういうことなのかというところを追求しないと、ここはちょっと難しいのかなというふうに思っています。要するに、皆さんの要望に沿っていくことを大事にするのか、それとももうちょっとみんなが成長できる、これを機会にして飯田の人たちはこうだって、プラスばかりじゃないと思うんですね。いろんなことに対して、マイナス思考もあったりいろいろあると思うんですが、そういうものをもう一回見直して、飯田に今までなかったような心の動きをつくり出

すというか、そんなことも大事に考えていったらどうなんだろうかなっていうふうに思っております。

それと、ここ今、理想を語っているところなんですけど、実際には素晴らしいものはできたけれども、使用料がすごく高いとか、使用料を取らなきゃやっていけないと思うんですけども、そういう実際にどういうことが起こっているのかということも、よくもちろん考えてらっしゃると思うんですけども、私たちみたいに一般人になると、すごいのができて、使用料はどうなんだろうとか、どこにできるとどうなんだろうかっていうことで、できる場所であるとか、この入れ物のあり方とか、その使い方とか、そういうことが相まっていろんな問題が起こってくるんじゃないかと思うので、私はもう次の段階に行って、こうしたらどうなんだろうみたいな形で話を進めていくと、イメージがしっかりできてくるのかというふう思っております。

すみません、長くなりました。

○委員長 ありがとうございます。

○委員 ○○でございますけれども、非常に難しい部分がありまして、ちょっと話がまとまってはこないんですけども、ちょっと気になったのは一つは、やはり地域の人たちが文化会館へ集まってくるのが現状では非常に少ないという、前からご意見をお聞きしてはおるんですけども、そういうことも含めて、もっと発信性のある文化会館へしていかなければいけないんじゃないかなという観点もあります。

それから、南信州とか南信とか、この地域をもう少しレベルアップすることも必要だと思いますし、リニアの関係で一つは首都圏なり名古屋に近くなるから、外に出て行ってしまう部分は多くなるのではないかなという疑問もあるんですが、やはり戦略的に考えていけば、近くなるということは、もう少しこっちへも呼び込むということも考えていかなければいけないんじゃないかなというように思います。

これから若い人たちの意見をもっと聞いていかなければいけないと思いますが、少子化と高齢化という現状の社会の中で、どう取り組んでいくかが非常に大事になってくるのではないかなというふうに思っています。

それから、首都圏なり名古屋の関係を考えますれば、例えば「東京都飯田市」でもいいんじゃないかというふうに、ものの発想を変えていけば、考えられないことはないのではないかなというふうにも、思っておりますので、なんとかまとまりませんが、そんな感じで若干思いがあるということでございます。

○委員長 ありがとうございます。

それじゃあ、続いて5班、お願いします。

○委員 ○○です。

やっぱりポイント1の「まち・賑わい・人をつくる」という言葉がちょっと一番ちょっとすごい難しい問題にぶち当たっているなという気がします。これはどういうふうに賑わいを

つくっていくのか、それはどこにできるのかってということも含めて考えていかないと、その飯田の文化施設の拠点ということで考えれば、一番重要になってくるんじゃないかなという気がします。

あと、専門性と多機能性の主目的という地域・広域という問題に関しましては、やっぱり飯田だけではなく、やっぱり南信州の文化の拠点ということも含めて考えていかなきゃいけないんじゃないかなということも考えております。

以上です。

○委員長 はい、ありがとうございました。

続いて、じゃあ3班、お願いします。

○委員 どうもこんばんは。〇〇です。

前回、私参加できなかったのですが、何か感想と言われても困っているんですが、今日のお話とか、それから前回の議事録等をちょっとざっと見させていただく中で、ここは文化会館のことを考えていますけれども、実は美術館とかそういう文化施設って同じような状況の中にあるのかなというのを感じています。

そう考えたときに、まちづくりとどう関わっていくかというのは、大きな問題だと思うのですが、施設だけがまちづくりをできるわけではないので、逆に言うと、これからのまちの中で施設はどういう役割を期待されているのかという、実はそういう意見を聞いた上で、またもここでみんなで議論ができたらいいなかなっていうふうなことを思った次第でございます。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

続いてお願いします。

○黒河内委員 お世話になります。

ちょっとまとまらないかもしれないんですけど、やはり少子化というのがすごく早い時期、今、深刻になっているというのを飯田市全体として感じています。幼児教育をしている立場としては、小さな子どもたちがだんだん少なくなっていくところは危機感を感じるんですけど、やはり人を呼んでいく、人を呼ぶっていう流れをつくるってところが大切なんじゃないかなというところで。だから何がいいかというのは、まだ私自身も考えがまとまってませんけれども、皆さんと一緒に考えていけるといいなあというのを思いました。

○委員長 ありがとうございます。

お願いします。

○委員 こんばんは、〇〇です。

今まで数回にわたって基本構想、議論してまいりましたが、かなり要望等が多種多様にわたって出ているということで、これをどうまとめていくか、また広がり過ぎていけな

いんじゃないかということも感じております。もう絞り込みっていう感じで、もうある程度考えることをしていく必要もあるのかなと。広がり過ぎてもいけないなということ。

それといろいろの文化に携わっている方たちが、かなり飯田下伊那を含めて多くいらっしゃるので、その方たちの要望を全て聞くということはできないということですので、それをどうまとめていくかっていうのが、今後の課題になるのではないかなというふうに感じております。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

それじゃあ、続いて2班、お願いします。

○委員 お願いします。〇〇と申します。お世話になります。

私も、いろんな方の思いを聞きながら自分なりにまとめてと思いながら、うまくまとまらないんですが、私は実はダンスをやっております、舞台にも立つし鑑賞もする立場です。

いっぱい仲間がいて、その方たちに文化会館ができる話をしたら知らない方も多かったり、「いいホール造ってくれるの」って言ったり、でもその方たちが一番なんか日頃感じていることは、練習場、稽古場、リハーサルルームとかいったそういう文化会館。今の文化会館の施設だと、多分50年前は講演会とかそういう話をするための施設のようなことが大きくて、ダンスとか体を動かして使うにはちょっと使いにくい、床が固い、鏡がない、いろんなことがあるんですけど、本当にそういうところをもっと充実して、文化会館が使えたらそこで交流ができるし、人が集まるし、そして舞台でも発表する。大きいものを呼ぶだけじゃなくて、自分たちの成果発表、生きがいのある場所づくりがそこでできたらうれしいなと思います。

あと、文化会館は今、ただの貸し館じゃなくて自主事業館であることはすごくありがたいことだなと思っていて、私も今、関わっているんですが、確か地域舞台芸術創造支援事業でしたっけ、それもすごくありがたいもので、もっと広がっていくといいなといって、市民の文化芸術の向上に市が手を貸してくださることは感謝しています。普通に楽しいと思います。

以上です。

○委員長 続いてお願いします。

○委員 こんばんは、〇〇です。

この後ちょっと高校生とのミーティングの話もちょっとあって、そこでダブってしまうんで短く話したいと思うんですけど、一番やっぱり僕、意識とか気になるのが飯田らしさの部分なんです。飯田らしさって、例えば人形浄瑠璃とかそういうものがあるかとか、それから公民館の活動が活発だとかっていうそういうところじゃなくて、実はそういうものが自由にその市民からちゃんと生まれて、継続しているということが、まさに飯田らしいのだと思います。

だから、例えば人形のまちだとか何か公民館の市民活動、そういうものがあるからそれを守ろうというような形よりは、例えばそういうものが自由に何か生まれて育っていくって

うような、そういう土壌みたいなものがこの地域にはあるということが、一番の飯田らしさなのかな、自由っていうこと。

だから、ここの中で飯田らしさっていうものを、このメンバーで飯田らしさってこうだよねって決めちゃって、それを例えば若い人たちに押しついたりするのも、なんかちょっと違うのかななんて思ったりもするっていうのもあります。

またちょっと後で話をしたいと思います。以上です。

○委員長 ありがとうございます。

それじゃあ、最後に1班、お願いします。

○委員 はい、〇〇です。

今、皆さんのお話を伺っていて、自分の意見がもっとまとまらなくなってきたんですけども、まず考えるに当たってこの先60年、今までの文化会館が50年使った、次の文化会館の耐久年が例えば50年だとして、この先60年先の賑わいをどうしていくかって考えたときに、さっきおっしゃっていたように少子化っていうのもあって、どうあらがってもいかんともしがたい衰退期にある中で、大きな規模の箱を造らなければならないっていう命題がある。そこでやっぱり難しいっていうことが出てくるんじゃないかなと思うんです。

先日、人形劇場ができた経緯というのを、ちょっと勉強させてもらったというか資料を読ませていただいたんですが、そのときは、まずはその人形劇の人たちが集まってきた。じゃあ、施設が必要だねっていうことで、施設ができたというような経緯があったというのは読んだのです。だから、そのときは必要に迫られて造った。今度は必要、何が必要かを考えながら、それに見合ったものを造っていく。見えないものを求めながら造っていくっていうのが今、難しく、困っているところなのかなというのを一つ思いました。

飯田のアイデンティティをどうするかというか、何かっていったときに、例えば今までやってきた人形劇っていうのは大昔の江戸時代、もっと昔からの文化が発展してきて今の人形劇がある。じゃあ、それを継続していくのか。一方、桑原さんがおっしゃったように、それを押しつけていいのかっていうと、私たちの子ども、それから孫たちがそれが鎖になってしまっただろうし、そこから先、私たちはやはり生きてないのに「やれ」って言って押しつけて、死んでさようならっていうわけにもいかないなというのをいろいろ考えると、どうしてもどん詰まりにはなるんですが、それでもそんな中でじゃあ、どうするかっていうと、ああ、困ったなって思っています。

以上です。

○委員長 はい、ありがとうございます。

それでは、まずオブザーバーさんから、すみませんがお願いします。

○オブザーバー こんばんは。

この会の終了の頃にまとめを言えばいいかと思って安心しておりましたら、すぐ回ってきましてびっくりしました。

何か今日のお話を伺っていて思ったのは、今までとちょっと違って潮目が変わったかなという感じをしました。つまり、まちづくりとか地域づくりとかというお話が出てきました、非常にたくさん。それから、〇〇学識委員からも、「より広い飯田として、にとってどう貢献できるか」っていうようなお話が出ました。

私は、まちづくりと文化会館は不可分なものだというふうに思います。不可分というのは分けて考えられない。今日はまさにそんなことが沸々と出てきて、ある意味びっくりしちゃいまして、そのこと自体が文化会館がどこに造るかというような議論につながっていくだろうと思うし、それからもっと言えば「ひろば」っていうお話をしていますけれども、スペース、あるいは空間というものの中にまちと文化会館があるというような捉え方ができるのかなと、今日の皆さんのお話を一人一人聞いてて、そんな感じがいたしました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

それでは最後に〇〇学識委員、お願いします。

○委員 特に私からは、先ほど発言をさせていただきましたし、付け加えることはございません。

皆さんの意見、いろいろと参考になりましたので、今後の議論の中でも考えながらという感じでございます。

以上です。

○委員長 はい、ありがとうございます。

(2) 意見交換（ワークショップ）

○委員長 それでは、続いて、意見交換（ワークショップ）に進みたいと思いますが、それぞれのテーブルに松下参与、下井館長、それから事務局の職員の皆さん入っておりますので、適宜サポートをよろしくお願いします。

それから、先ほど松下参与から今後の進め方についての説明がありましたけれども、11月25日の学習会の論点になった「地域づくりの視点から考える新しい文化会館に必要な活動」ということで意見交換をしていただきたいと思います。

ちょっと、視点を絞っちゃって大変かなというように私も思うんですが、前回のその11月25日のときに、「まちをつくる、人をつくる、賑わいをつくる」っていう視点をいただきましたので、今回の委員会の検討の前に事務局とちょっとお話をしたときに、『飯田らしさ』って何だろう」と、先ほど何名の方からか話題にさせていただきました。例えば地域づくりであれば「まちを育み」、「人を育み」、「活力を生み出す」っていう表現を使って事務局のほうでまとめていただいておりますが、意見交換の中でこの辺もちょっと話題にしていればありがたいと思います。

それから、グループワークの後に後半、全体の場での意見交換の時間も多少ありますので、皆さんからぜひご意見をいただきたいと思います。

それではワークショップに入りますが、事務局からワークショップの進め方について説明をお願いします。

○下井館長（事務局） それでは事務局下井でありますけれども、ワークショップの進め方について説明をさせていただきます。

時間としては、ちょっと幾分遅れ気味ではありますがありますけれども、70分間使いたいというふうに考えています。

進行は、各グループでお願いしますけれども、特に司会などは今のところ設けておりません。

本日の話題としましては、「舞台芸術の視点と地域づくりの視点から考える新しい文化会館に必要な活動」ということでございます。

今日、資料を用意したのは、先ほどの続きで資料3-1、6ページになりますけれども、こちらのほうは今までの前半の振り返りというのを、この一つのイメージ図にちょっと落としてみたものであります。赤いところが「飯田ひろば」とありますけれども、これは今まで我々が考えていたものですが、緑色の字の部分は、前回の講演会等で新しいご指摘、示唆をいただいた部分だというふうに捉えていただければいいと思います。

それで次のページですが、7ページでありますけれども、こちらのほうが今日の議論の材料にしていただければということで、少し用意をさせていただいたものです。基本としては、やはり我々が今まで考えてきました“仮”ではありますけれども、基本理念ということで「みんなが集い、創り 伝える 感動の飯田ひろば」ということございまして、それについてこれまで議論をしてきた30のキーワードを並べてございます。それから、飯田の今までの活動の特徴的な例ということで記載をしてあります。これらは、現在の活動の目次というか、目録みたいなものだというふうにお考えいただければいいかと思えます。

先ほどもあったとおり、いろいろなところに関係してくるので、こんなにきれいに縦で割れるというものではないというふうに思いますけれども、一つの見方として目録を挙げたというふうにお考えいただきたいと思えます。

この図の下のほうは、こちらも緑色で書いてありますけれども、「創客」であるとか、時間短縮をどうやって生かすんだってということ。

それから、先ほど委員長からございましたが、「人を育み」、「まちを育み」、「活力を生み出す」ということで少し言い換えをしてありますけれども、飯田にとってふさわしいのではないかと、こんな表現をしてございます。

この資料を参考にしていただきまして、舞台芸術の視点と、もう一つは地域づくりの視点ということで示唆をいただいた、新しい文化会館に必要な活動についての意見交換はこの後していただきたいと思えます。

先ほど70分と申しましたが、最初のグループワークは概ね35分ぐらいを目安にさせていただきたいというふうに思います。その後、班ごとで発表をお願いいたします。ですので、そ

の 35 分の中で発表者を決めていただき、どんなことを発表していただくかということもおよそその中でまとめていただけるとありがたいなというふうに思います。

その発表が終わりましたら、ワークショップの後半に移りますけれども、全体で意見交換という時間にしたいと思います。

後半の意見交換ですけれども、地域づくりの視点から見たときにどのような効果があるのか、「まちを育む、人を育む、活力を生み出す」とはどういう状態を期待するのかということで、皆さんでその中身を共有したいというふうに考えております。

これからワークショップに入っていくわけですが、今更ですけれども、ルール説明というか、ルールをちょっと確認しておきたいと思います。3つほどございますが、1つ目は「人の意見を尊重しましょう」ということですね。否定的な意見、人の意見に対する否定的なこととは言わないようにしていただければと思います。

それから2つ目としては、時間が限られますので、なるべく簡潔にお話をいただきたい。1回の発言で1つというようなイメージをお願いします。

3つ目ですが、発言はやっぱり自由でお願いしたいなと思います。皆さん背負っているものがあるかと思いますが、基本的には個人の意見をお願いできればと思います。楽しくワークショップができるとうれしそうと思っています。

それでは、これからワークショップに入っていきますけれども、今回のテーマのヒントとしまして、〇〇委員に協力いただいて昨年開催いたしました市民ワークショップの様子をお話いただければと思います。そのときのワークショップでは、高校生や大学生に大勢参加いただきましたので、若い皆さんの希望や夢がヒントになるのではというようなことで少しお話をいただければと思います。

〇〇委員に関しましては、今回のこの会場、ムトスぷらざですけれども、このムトスぷらざの活用を考える「ふらっと会議」のコーディネーターという立場でもございますので、その点のことも含んでお話いただけたらと思います。

それでは〇〇さんお願いいたします。

〇委員　じゃあ、短めにお話いたします。

先般、高校生 13 名で大学生 4 人ということでお話をしたのですが、まさにそこに参加してくれた高校生たちは、自分たちで音楽をやっている子たち、それからその友達なんかですが、まず大人の人たちと僕が話すと、やっている人たちは自分がやっているそのジャンルでこういう文化施設がほしい、こういうようなことができるものがほしいって話が多いのですが、高校生たちと話をしたときに、そういう話はほとんど出ないですね。ほぼ出たのは、「やっぱりいろんな人たちと出会える場所にしてほしい。それからバリアフリー、障害者の人たちも、それから高齢者の人たちも、その人たちが同時にいろんなところに顔を見せるようなところにしてもらいたい、そういう人たちと出会いたい」ということが特に強く出たことがすごく印象的でした。

それから、やっぱりその自分たちの居場所っていうふうにもなりたいたいということですね。数人から「文化会館にはほとんど行く機会がない」と。要するに高校生にとってはかなりハードルが高いというか、自分たちの場所ではないっていうイメージを持ってたっていう子たちがやっぱりすごく多かったです。それがやっぱりそうじゃないような場所にしたい。だから「学校帰り、要するに帰り道なんかにはぶらっと寄れるような感じで、あまり遠くないところにあってほしい」という意見があったのも印象的でした。

あと「人形劇と音楽を組み合わせるっていうこととか、新しいことをやってみたいと思ったときに実現ができる場所にしてもらいたい」という意見もありました。だから、こういうことをやりたいからこういうステージの施設がほしいという意見よりも、「なんかいろんな人たちと出会って、新しいものをちょっとやってみたいと思ったときに、それを実現できるような場所になればすごくうれしいのになあ」ということがありました。

あと「やっぱり文化会館というところのその会館だけじゃなくて、その周りで自分たちが気楽にご飯を食べたりできるような場所がないとそういうところなかなか行けない」というような話がありました。

文化をどういうふうにしむかとか、その食べる場所のこともそうですし、人が集まることもそうですし、それから通りすがりで自分たちが簡単に寄れるとかっていう、そういう日常的な場所にすごくなりたいたいというのが、高校生がすごく願っているなあというのが特に印象的でした。それぐらい今の高校生にとって、文化会館は若干やっぱり遠い場所であるっていうイメージがあるのだと思います。

この場所（ムトスぷらざ）もやっぱり以前の公民館、いわゆる中央公民館っていった場所は、高校生はほぼ来ることがなかった場所でした。でも、ここの場所になってから駅にも近いし、待っている子たち、高校生がいっぱい来るんですね。で、その子たちは勉強はしているのだけれど、そこでしていることによってほかの人たちと大人に会ったりとか、ここで例えばこういうことをやっている、「中で、何やってんだろう」とか、そんなようなことに出会う場所になっているっていうことが、高校生たちにとっての刺激としてはすごく大きい場所になっているのかと、そんなことをミーティングの中で感じて高校生からはそんな話を聞きました。

以上です。

○下井館長（事務局） はい、ありがとうございました。

それでは、各班でワークショップに入ってください。

今、基本理念で仮として置いてありますけれど、「みんなが集い」それから「創り」、「伝える」、「感動の」、これらのキーワードでそれぞれ分解して、時間は限りがありますがけれども、お話いただくというのも一つのやり方かなというふうに思います。特別やり方は決めておりませんけれども、各班でお話合いをしていただきたいと思います。

よろしく願いをいたします。

(班別のワークショップ)

○筒井補佐(事務局) それでは、時間になりましたので、班ごとに発表をお願いしたいと思います。

概ね3分ぐらいを目安に発表いただきたいと思いますが、それでは1班からちょっと皆さんが見えるような感じで、中央から発表いただければと思います。

よろしく願いいたします。

○1班委員 はい、1班です。

皆さん、〇〇先生が明確に書いてくれました。

そもそも文化会館、今の文化会館って必要なのかなっていう暴論から入ったんですけど、今の文化会館に行く機会がないという、「さっき〇〇さんがおっしゃっていた高校生たちの発言と私の感覚似ている」というふうに皆さんおっしゃってたんですけど、じゃあ、何かって考えたときに、これまでの文化会館は大人数が集まる大きな活動が1個、2個っていうふうにあったけれども、これから先、小さなそれこそ2、3人とかいう活動がいっぱいあるような生活になっていくのじゃないか。今もそうですね。集まりたい人たちはもう2、3人とか5人とかで何かグループ活動をしているっていうのが、それがいろんな分野にわたって、いろんなカテゴリーで起きている。それは、これからの世の中じゃないかって考えたときに、そのキャパ1,000人とか1,500人とかのホールは一つそこ核として持っておき、それが例えば演劇を観るための非日常とする。じゃあ、そこに非日常の中に日常をどうやって取り込んでいくか。日常を取り込んでいくことが、次の新文化会館の求められていることじゃないかっていうふうに捉えたんです。

なので、ホールが1個ある中に小さな群れがいっぱい、一つのエリアの中に群がっている。そうすれば、ここで例えばちっちゃい会議をしている。ここで読書会をしている。ここでランチをしに来た。カフェに遊びに来た。ちょっとトイレに寄りに来た。っていうと、人が集まってくる。これが日常が集まってくるっていうことだろうと。そうすれば、ここで全く別の人たちですけど、偶然に出会うことができる。それから、それぞれが何をしているかっていうのが見えるから、伝えることもできるし、伝わることもできる。それぞれのちっちゃい活動がそれぞれに感動をいっぱいしている。

で、ここに来るっていうことはつまり居場所である。それがひろばである。そしてそれがまたいろんなところに帰って行って広がっていく。っていうようなものが、新文化会館の持つ機能の新しさでもあり、求められているニーズではないかというような感じにまとまりましたが、よろしいでしょうか。っていう感じです。

(拍手)

○筒井補佐(事務局) 素晴らしい発表、ありがとうございました。

続いて2班、お願いいたします。

○2班委員 お願いします。

特に書いたものはないのですが、よく聞いていると同じようなことを話していたかなというところがまずあります。

私は、さっき自分の意見のところだと、ホール機能を良くしたいとかりハーサルルームなんて話もしましたが、もう一方の考え方ももちろんあって、ここで出た意見は、「文化会館とかそこをちょっと行ってみよう、足が向く場所であって、ふらっと行けるスペースがあるっていうのはすごい大事だよ」って言って、目的なんかなくてもそこに行きたいっていう気持ちになるような場所づくりが、文化会館だといいなってということがあって、いろいろ思っていたところに、大きく3つの場所が出てきました。

まずは、公園みたいな広場、外に広場があって、そして中に入ると椅子やなんかみんながそこを集える場所があって、それでさらに中には専門的なホールがある。外では例えば、誰かが楽器弾いているとか、楽器で演奏しているとか、歌っているとか、ダンスしているとか、なんかそういう勝手に楽しんでいるのをたまたま来た人たちが見る。さっきもそっちの話ありましたけれど、来た方たちがそこで見る、「ああ、面白そう」、「こんなことやっている人がいるんだ」、でちょっと聞いてみよう、見てみよう、こっちはしゃべっていよう、いろんな動きが起きますし、「あんなことやれるの、ちょっとやってみようかな」とか、そういうことができるし、例えば中のスペースでもちょっとコーヒーなんか飲みながら外でやっている人たちを見ながらこっちはしゃべっているとか、なんか本当に「多目的」という言葉が面白くつながっているっていうことはいいなと思って。

ただ、本当にホール機能はきちんとしていて、そこに入った瞬間に本当に非日常の特別な世界がそこにあるっていう。大きく3つのスペースがあったら本当にいいなと思って。やっぱりちょっとホールにこだわるのじゃなくて、場所にこだわりたい、スペースにこだわりたい。

それで、やっぱり自分がそこに行って楽しいってなると、いろんな人が集うし、親子が来て子どもが遊んでいてもいいし、学生が来て勉強をしていたりしゃべっていたりしたっていいし、大人のお年寄りとか大人の方たち来て集うことによって何か新しいつながりが生まれて、楽しい場所になる。行きたい場所になるのじゃないかと思います。

あと、そういう居場所があったり、あそこに行くところの人に会えるっていうプロフェッショナルな人なんかいたりすると、そこもやっぱり行きたくなる場所になったら、自分が例えば大学生になって都会に出ても、将来的に地元に戻ってきたら、「ああ、あそこに行ってみよう。またあの人に会えるかもしれない。」「面白いことが生まれているかもしれない。自分のふるさとはここだな」って飯田が好きになれる場所だといいなと思って。もしそんなところがあつたら、私、高校生に戻りたいと実はちょっと思ったくらい、なんかワクワク感がありました。

あとは補足してください。

(拍手)

○筒井補佐（事務局） ありがとうございます。

続いて3班、お願いいたします。

○3班委員 3班もまとめたペーパーはございません。ざっくばらんにいろいろ感想を出し合って意見を出し合っていたきまして、いくつかポイントがあったと思うんですが、まず「まちの賑わい」ってどういうことなのかということで、例えば40年前、30年前、40年くらい前ですかね、この丘の上が賑わってたって、ああいうふうにな人がワーッと出てきてたくさんいる、もうそういうことではないのじゃないかなということで、1班でも2班でも同じようなことで、少しの人が集まってつながっていく、そういう場があるっていうのが、日常の中にそういう場があるっていうのが、賑わいの一つのこれからのあり方なのかなっていうようなイメージで話が進みました。

○○さんの言葉で言うと「心の充実、それが賑わいだろう」ということでしたが、心を充実させていくっていうのはなかなか難しいことだと思うんですが、日常の暮らしの中でそういう人とつながれたり文化と接したりできる、そういう場があることというのがまず大前提にあるのかなということです。

じゃあ、具体的に文化会館、あるいはそういう文化施設がそういう活動をどう広げていくかというのは難しいところだと思うんですが、今までは多分「来てください」というやり方だったんですね。これからはやっぱりまず出て行く。既にアウトリーチっていうのはどこでも大事だって言われている時代ではありますが、実は飯田文化会館とかいろんな公立施設できていないのは、やっぱりスタッフがいない、とてもそこまで手が回らない。大事なのは分かるけれど、手が回らないということで、なかなかつながっていく場が、つながり方がうまくつくれていない、文化へのアクセスがうまくできていないということで、こういうときには、ちょっと一つの例で私が申し上げたのが、大分県知事、広瀬淡窓の子孫になるのだそうですけども、広瀬知事がすごく肝いりで大分県立美術館っていうのを造りました。実は県教委のお尻をかなりたたいて美術教育の中へ、カリキュラムの中へ、県立美術館の活動、見学だけはないんです。いろんな活動を得なさいということで、3年くらいかかってそのカリキュラムをつくったんですね。それですごく、小学生からずっとみんな県立美術館を核にした美術教育っていうのができるようになった。

例えばの話ですけれども、そういう施設だけではなくて、ほかともつながりながらアウトリーチしていく。そうやって、いろんな文化へのアクセスの保証していくっていう政策といえますか、まちづくりっていうのはすごくこれから大事なのかなっていうふうに思います。

そんな中で、最終的には文化会館の施設って、やっぱりいろんな人が公演があったりして、老若男女、家族連れも来て、そこでやっていることが常にオープンになっていて、接している。興味を持ったら自分もやってみたいなっていうことで入っていける。そういう場がま

ずあってほしい。それから、その先には、やっぱりいいものが観たい、プロとか接したいっていうことになってくると、リニアで時間距離が短縮するようになるとただ観るだけ、受けるだけではなくて、一緒になってプロと共につくっていきけるっていう、自分もそういう世界に入っていけるんじゃないかっていう場になる。すごく抽象的な形でまだまとまっていないのですが、そんな意見交換をさせていただきました。

以上です。

(拍手)

○筒井補佐(事務局) ありがとうございます。

続いて4班、お願いいたします。

○4班委員 4班ですが、まずは飯田らしさっていうところは、今まであるものを大事にしているところがまずあるのですけれども、新しい取組にそれがつながっていくような、そういうものになってもいいのじゃないのかな。例えば、「人形劇のまちという飯田のこの取組が、新しくできる施設に何か取り組んでいくようなこともできたらどうなのかな」ってというような意見をいただいております。

それから、施設そのものについて、「やっぱり楽しみが育つところ、そういう場所になったほうがいいんじゃないのかな」っていうことで、若い人の思いをまとめた先ほど報告がありましたけれども、若い人ももちろんですけども、高齢者の皆さんでも誰もがやっぱり楽しめる場所になる施設なんだろうなっていうこと。

それから、「なかなか女性の参加はいろんな活動に多いのですが、男性の関わるところが少ないってことを考えると、その新しい文化会館ができることによって、男性の皆さんが参加したくなるような、そういう場所になるのも必要なんじゃないかな」っていう話がありました。

いずれにしても、「楽しみにして行ける場所が新しい文化会館であってほしい」というご意見もありました。

何が必要、物的なものの部分では、例えば大きなホール、小さなホール、多目的な施設、専門性のある施設ってというような話が出てまして、ホールもいろんな機能を持ったものがあるっていいんじゃないのかなっていう思いと、それに付随する会議室とか練習室とかというような小さな部屋が自由に使える、そういう場所があるといいなっていうことです。

それから、その文化会館の建物プラス、プラスっていうのかな、「広い意味で例えば周辺の公園施設とか、そこに来た人がちょっと食事をとるところがあるとかね、そういう附属した施設の要素も必要なんじゃないかな」っていう話が出ました。

あと、「どんなことができるのかな」っていう話の中では、「やっぱり新しい施設が、今までその文化活動に関わっていなかった人たちが活動に参加する、そういう場所になってほしいな」っていうことで、「例えばその地域の住民の皆さんが企画をするイベント、そういうものが盛んに行われる。それから、どんなイベントができるのかとか、企画を用意をしていく

のかっていうところが大事じゃないのかな」っていう話も出ました。「地域の皆さんが企画をして、その行事をすることによって、地域づくりにもつながっていくきっかけになるんじゃないのかな」っていうような話もありました。

あと、「施設がどこにできても今まで話をしてきたその基本理念、これは大切にしたい施設ができてほしいと思うのだけれど、早く場所がどうなのっていう、そういう思いがあるんじゃないのかな」っていうご意見もありました。「やっぱりどこに造るのかっていう場所的なことが、関心が高いところなのかな」っていうご意見がありました。で、「どこに造るにしても、やっぱり施設は生活圏の中にできることが望ましいんじゃないかな」っていうようなご意見もありました。

その施設をどこに造るかっていうようなことについては、今の市のほうでもいろいろ調査をしていただいているという状況もありますが、「できるだけ早い時期にまた提案をしてもらうと、場所と施設が一緒になって考えていけるんじゃないのかな」っていう、そういうような思いでのご意見をいただいたというところでございます。

まだ全部まとまっておりませんが、そういう話はさせていただきました。

以上です。

(拍手)

○筒井補佐(事務局) ありがとうございます。

最後に5班から発表をお願いいたします。

○5班委員 はい、5班と言いましても2人しかいなかったんで、ちょっとやりとりをしているというだけのまとまりかもしれませんけれども、皆さんと同じようなところだと思うんですが、一つ「飯田らしさ」っていうところで、何が飯田らしさ、飯田の文化事業らしさっていうことから言うと、これは外からの気付きなのですけども、私も関わっている「萩元晴彦ホームタウンコンサート」っていうのに関わってくれてた事務局の方が、その後、長崎県の大村市のシーハットおおむら体育文化センターの館長になられまして、女性の方なんですけれども、その人がコンセプトにしたのが「飯田のまねです」っておっしゃったんです。これって飯田の人たちはあまり気がついてないと思うのですけれども、飯田の文化事業の非常に特徴的なのは、全ての文化事業を市がうまく市民を巻き込んで実行委員会形式でやるという、このやり方がまさに飯田らしさなのかな。そうすると、箱物よりもそこでそういうような運営をしていくことが、すごい飯田らしさなのかなと。「そのための箱物と、それをやるためのプロデューサーやディレクターやなんかを育てていくっていうのも非常に大事なのかな」というような話が出たと思います。

それから、いろんな取組ですね。今まで以上のいろんな取組、先ほどもダンスのお話もありましたけども、そういったものや軽音楽とかっていうワークショップ的なものができるもの。そしてそこにはダンスでも若い人じゃない、それ見ててちょっとシニアも加わせてくれというようなことで、それが全国に発信できるようなところまでいけるようなものをつく

っていくと、やっぱり注目される。注目されると、そこにまた参加したいっていう人たちが出てきたりするのかなというところですね。

それから会館専属の劇団や人形劇団があってもいいのかなっていう話。

それから、会館、施設とすると、フリースペース、先ほどの皆さんのお話にもありましたけれど、そういったものもあっていいんじゃないかなっていうのと、新しく造るとよくあるように制限がかかってしまう。「こういうのを使わないようにしてください」っていうことが制限がかかってくるんで、それもあるべくない、もしくはこれをやりたいんだけどといったときに「じゃあ、ここだけ守ってくださいね」っていうような使い方ができるような会館だといいなというのと。

先ほど来出ている、賑わいということからいうと、文化会館、いいコンサートやなんか聞いた後に、「おいしいお酒飲みたいよね。おいしいもの食べたいよね」っていうところでのまちとのつながりがあったりするとさらに楽しいのかな。それから、「会館の中にちょっと飲めるところがあってもいいんじゃない」とかいう話もありました。

それから、せっかくなんだから、伝統芸能とかっていうのはここでやるのはちょっと無理なんだけども、その入り口としてのデータがここへ来て、「ああ、飯田下伊那ってこんなものをいろいろあるんだね」っていうところの発信の場でもあってもいいのかな。それが映像のアーカイブとして残っていても面白いのかな。

それから、皆さんがやってきた活動のライブラリとして、映像として残ったりするのが文化会館にあると面白いのかな。それから、「そういったものがさらに発展して行って、海外の研究者とか国内の研究者のここの研究の場になっていっても面白いのかな」というようなお話がありました。

とにかく、みんながこれが文化っていうよりは、みんなが楽しいことをやれるところが文化会館というようなふうになってくるといいかな。

ただ、新しいものになると、施設の維持がコスト的にどうなのかなっていう心配も非常にするところでありまして、「新しくなって経費がかかるけれども、それって飯田市大丈夫？」っていうようなお話もありました。

以上、ちょっと雑ぱくですけども、よろしくお願いします。

(拍手)

○筒井補佐（事務局） ありがとうございます。

それぞれの班で熱心に意見を交換していただきまして発表いただきました。

ここから、後半の時間が大分押しておりますけれども、最後全体の意見交換ということで、

○○学識委員に少しファシリテートをしていただければと思います。

よろしくお願ひいたします。

○委員 はい、○○でございます。

皆さん、どうもグループディスカッション、発表、お疲れ様でした。

まず、今の発表を聞いていて思ったのは、それぞれ非常に印象に残るお言葉を残されているのですが、かなり似た感覚が各グループの中で持たれているなというふうに思いました。

なおかつ同時に、〇〇さんの説明も非常に素晴らしかったからかと思ったのですが、高校生の皆さんが日常的な暮らしの中で感じている感覚と、皆さんの感覚が非常に似通っているなという印象を持ちまして、まさにそれが現在の飯田の文化会館に足りてないというふうに皆さん感じられているのかなという印象を持ちました。

こういった皆さんのイメージを聞いてみると、透明性とか、オープンとか、何か交わりだとか、出会いだとか、それは結構日常的な部分で起きることってというようなことをイメージされていて、それにいわゆるホール、いわゆる非日常的なイベントみたいなものがくっついている。今の文化ホールというのは、なんとなく非日常のイベントには対応しているのだけど、日常的な部分が欠けているよねっていうのが、飯田で関わっている皆さんの思いかなという気がいたしました。

私、最初の部分で、「いわゆる地域の視点って大事だってこの前、気付かされました」という話をさせていただきました。今回のこの議論、最後の議論も「地域づくりの視点から」っていうふうに書いてあるのですが、ある意味、今のグループの発表の中に地域づくりの視点というのは既に結構入っていて、4班で発表をされた中に「早く場所を決めて」っていうのがまさに、「いやいや場所によって地域づくりっていても変わってくるでしょ」みたいなことがあったのかなと。そういう中で生活圏の中心とか、あと皆さんが日常的に行けるとか、例えば文化会館に行った後、ちょっと外で飲みに行けるとか、食べる場所があるっていうふうな、なんとなくまちと一体になっているイメージっていうのが既に皆さんの文化会館のイメージの中にはあるのかなっていうふうに感じました。非常に私自身、楽しく聞かせていただきましたが。

何か地域づくりの視点っていうのに限るんだったら、もっと特別に言いたいことがありますというふうなもしご意見があれば、この場でご発言をいただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。時間が限られていますので、全員というわけにはいきませんが、2名、3名ぐらいの方のご意見を聞く時間はあるかと思うのですが、いかがでしょうか。

あるいは、ほかのグループの発表を聞いて「こういうことであれば地域にプラスになるよね」とか、「いや、でもこういう部分はちょっと地域にとって問題なのじゃないか」とかっていうようなこと、あればお願いしたいと思うのですが、いかがでしょうか。

お願いいたします。〇〇さん。

○委員 先ほど4班・5班の話、聞いていて、結局その飯田らしさの部分の地域づくりっていうのは、僕は公民館も例えば人形劇のことに関してもすごく大事だと思うんですね。なぜ、こんなに続いてきたかっていうと、やらされてないということだと思うのですよ。自分たちが楽しい、面白い、楽しいからずっと続いているのであって、これを公民館は大事だからやらな

くちやいけないですよとか、人形劇、これ大事だからこれを続けなくちやいけないって言われた次の世代の人たちはそれは大変だと思う。やっぱり僕たちっていうか、文化まちづくりの中で大事なのは、やっぱりその楽しさを伝えて、その人たちが自分たちが楽しいからそれがやっぱり育っていくっていう。

だから地域づくりでやっぱり一番大事に思いたいのは、つくるんじゃなくて、できていくってことをやっぱり大切にしたいなって、そんなふうに感じます。

以上です。

○委員 はい、ありがとうございます。

非常に「らしさ」という部分での飯田の皆さんの捉え方というのは参考になりました。

ほかにご意見がある方はお願いできますでしょうか。

どうぞお願いいたします。

○委員 施設はもちろんですけども、例えば先ほどの話ですと、食事ができるところとかでちょっと気楽に寄ってっていう、そういう場所が施設に合わせてできるといいと思うのですけれども、民間の事業者の方の営業の場所になるっていいと思うのですけれども、飯田の場合は、いろんな地域のグループの皆さんがそういう活動をしているところがあると思うので、例えば文化会館のできた敷地の中にあるそういう食事処みたいところは、地域のおじさんやおばさんたちが何か提供するような場所っていうような、そんな場所ができると、またいいんじゃないのかなというふう思うので、これは公共施設を運営していく上でのまたいろんな課題があるとは思いますが、そういうことも考えていけるといいんじゃないのかな。

お隣に民間の食堂ができるとか、そういうことも大事なんだけど、できたらそういう地域の皆さんが関わられるような、そういう場所ができるといいんじゃないかというふうに思っていますので、検討していただく一つの材料にお願いできればという思いです。

以上です。

○委員 やはりまさに文化会館というものができることによって、周りに広がっていくようなイメージということですね。

ほかにご意見のある方、いらっしゃいますでしょうか。

時間もそろそろ予定の時間になってきているかという感じかもしれないのですが、あとお一方くらいもしあれば。

どうぞ、お願いいたします。

○委員 今までの議論と全然違うんですが、箱物に対してせっかく飯田で造るのだったら、今後の維持管理も考えて、再エネに相当配慮して、県産材、地元の材料を使ったりとかっていうようなことも取り組んで、これはその後、当然のように考えられると思うのですが、飯田らしさっていうところでは、そんなところも頭へ入れていったらいいのかなとちょっと思いました。すみません。

○委員 はい、ありがとうございます。

かなり具体的なものというか空間、さっき「スペースにこだわりたい」というようなお話もありましたけれども、かなりそういう具体的な施設のイメージみたいなものに何かつながっていくようないいディスカッションができたのではないかなというふうに思っております。

筒井さんどうでしょう。そろそろですかね。

○筒井補佐（事務局） はい、そうですね。

○委員長 はい、皆さんありがとうございました。

○○学識委員ありがとうございました。

それじゃあ、本日の振り返りということで、お三方よりコメントをいただきたいと思えます。

まず、続いてなのですが、○○学識委員さん、そしてオブザーバーさん、そして最後に本日のまとめということで松下参与からコメントをいただきたいと思えます。お願いします。

○委員 はい、皆さん本日はどうもありがとうございました。

私は、今日のグループごとの発表の中になんか重要なキーワードが入っていたなというふうに思っていて、書留めさせていただきながらアンダーラインがいっぱい引かれてしまったのですけれども、1班、私もいろいろ楽しいお話を紹介しましたけれども、小さな群れみたいになってきている。昔は一つの大きな矢印だった時代っていうのが、こう小さな群れになってきていて、なんかそういった小さな群れがつくっている日常みたいなものが、なんか非日常の周りにこうだーってこう貼り付くような何かイメージというのをこの1班での議論を聞いていて感じました。

2班の発表も、まさにそれを受けてという感じだったと思うのですけれども、その中ではもう少し具体的な空間で、外部の空間があって、中の空間があって、さらにその内の空間にホールみたいなものがあっていく。要は、そのホールって箱にこだわるのではなくて、そのスペースにこだわることで、そこで人と人との交わりが生まれていくようなイメージを持たれていたってということですね。

3班の発表も、まさにそれを受けると感じ、「賑わいって何だって言ったときに、それは心の充実である」というのが非常に印象に残っておりますし、その心の充実っていうのは、人がつながっていく日常というようなキーワードにもまたつながっていくのだなというふうに思いました。

4班の方も、「楽しみが育つ」というようなことで、やはりかなり日常的な中での文化っていうものを介在した、人と人とのつながりみたいなものがわーっと起きていくようなイメージというのが、全ての班の方の発表がつながっていて感じていて、それは従来、飯田が今まで文化活動の中でやってきた市民を巻き込むという飯田らしさ。それは、まさにこの新しい文化会館の中では、何か箱の中だけではなくて、地域の中で市民が文化的なものに巻き込

まれていくような、なんかまさに飯田の文化会館。「会館」という言葉がちょっと箱をイメージしてしまうのですが、文化施設、文化の場において起きていくというような印象を持たせていただきました。

非常に参考になる議論とあと発表をしていただき、どうもありがとうございました。

大変、印象的な委員会でした。ありがとうございます。

○委員長 ありがとうございます。

それじゃあ、オブザーバーさん、お願いします。

○オブザーバー まさに〇〇学識委員のまとめのおりだと思うのですが、先ほど私が申し上げた、「エリアとして考える文化会館」というお話をしたと思うのですがけれども、会館という施設本体とその周辺という見方をしたときに、まず会館の周辺には期待するもの、それから会館自体に期待するものとあると思うのです。会館自体に期待するものというのは、今日のお話のあったように、日常的なものをいかにここで生ませるかということだと思うのですね。それと周辺に期待できるものがあれば、そちらが周辺に期待したほうがいいというふうに、そんな形で地域づくりについて考えてみました。

ありがとうございました。

○委員長 ありがとうございます。

それじゃあ、最後に松下参与お願いします。

○松下参与（事務局） 約2時間にわたりまして、本当に密度の濃い、大変中身の濃いお話をいただきまして誠にありがとうございました。

私が入っていた班でも、「漠とした議論をいつまで続けるの」というお話や、「もう少し具体的な施設の落とし込みまで早く進めたほうがいいんじゃないか」というようなご意見もいただきました。場所についてのご意見もいただきました。

実は、この飯田市の新文化会館の構想計画づくりというのは、全国的にもやってない方式だと思うのです。オーソドックスなのは現文化会館の評価をまずして、どういう課題があるのかを羅列して行って、市民アンケートをとって、その改善点を掘り起こした中でどうしますかというふうに持っていくところが多いということと、そして、行政のほうでこういう評価ができますので、こういう形ではいかがでしょうかというふうに投げかけていく、そういうプロセスをとるとこは多いのですが、この委員会では逆の、皆さんにとってはじれったい時間を大分お願いしており、まさに先ほど〇〇さんもおっしゃっていましたが、一つの考え方を提示してつくるというよりも、みんなで作ってあげていく、できていく、それがやはり大事だということで、この計画策定の中でも構想についてはそういうプロセスを大事にしながら、つくり上げていきたいと考え進めています。

しかしながら、ある時期からは、市民の皆さんに、ここでの議論をまとめて言葉にして発信をしていかなければならないので、そのところは大変苦勞をするなというふうに思っていますけれども、こんなふうな形で今までの議論をまとめていいでしょうかというものを示

して、ご意見をいただいて、まとめていくという段階が来ますが、しばらくはこういうボトムアップの積上げの議論にぜひ参画いただければと思っています。

今日の資料の6ページのところに、第6回については5月頃をお願いしていきたいと思っていますけれども、今日いただいた意見を事務局内で整理をして、いま一度今日の振り返り等をしていただき、事業の考え方をもう少し出し合っていたり、施設整備の考え方、周辺のそのまづくりへの効果や連携も含めて明らかにしていくというような検討をお願いしていきたいなと思っています。

後どのくらいやるかっていうことですが、構想については少なくとも6、7、8、9回くらいで行い、まとめていけるように考えていきたいなと思っておりますので、そのくらいのプロセスを経て、市民の皆さんにもお示しができるような案がまとめていくことができるといふふうに思っています。

構想がまとまった後は、いよいよもう少し具体の施設の機能や設備みたいところまで踏み込んでいったり、全体の事業をどんなふう具現化していくかということを検討していく基本計画の策定に入っていきます。まだ長い道のりをお願いをしていくこととなりますけれども、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

引き続き大変お世話様になりますけれども、よろしくお願ひをいたします。

また、〇〇学識委員、毎回遠方からお越しをいただきアドバイスをいただいていますけれども、ぜひ今後ともよろしくお願ひをいたします。

また、オブザーバーにもよろしくお願ひいたします。

ありがとうございました。

○委員長 ありがとうございました。

本日予定しておりました議事は以上となります。

委員の皆さんには、活発にグループワーク、そして全体の発言をいただきありがとうございました。

引き続き、次回以降も積極的なご発言をよろしくお願ひいたします。

それでは、事務局にお返しします。

○筒井補佐（事務局） はい、ありがとうございました。

最後に、事務局から事務連絡をお願いいたします。

本日の委員会、今後の進め方に関しまして、ご意見等ございましたら随時事務局のほうへ文化会館で受け付けておりますので、お気軽にご連絡いただければと思います。

アンケート用紙も用意いたしました、メールで出させていただくことも大歓迎でございます。

なお、今、松下参与から話がありましたけれども、次回、第6回の整備検討委員会は新年度の開催見込みになると思います。4月はオーケストラと友に音楽祭も予定されておりますので、5月中旬以降になる可能性が高いかなと思っておりますので、日程に関しましては改

めてご連絡をいたします。

なお、本日、受付のときにご案内して何人かの方には書いていただいたと思いますけども、ニュースレター以外に情報誌を作りまして、市民の皆さんと情報を共有していきたいと思っております。その表紙のタイトルに関しまして、ぜひ皆さんからもご意見いただきたいと思ひまして、ホワイトボードに少しデザイン案、今日はデザインを一緒にやっけていただいております、伊那谷サラウンドの北林さんと新井さん来ていただいておりますけれども、そういう広報のチームも少しずつ仲間を増やしていきたいと思っております。

また、今日、ケーブルテレビの取材に来ていただいておりますけども、テレビ広報等でも今後紹介していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

以上です。

○委員長 はい、ありがとうございました。

それでは長時間にわたりお疲れ様でした。

以上で第5回飯田市新文化会館検討委員会を閉会とさせていただきます。

お疲れ様でした。ありがとうございました。

閉 会 午後9時02分